

【巻頭言】

新しいICT推進体制

情報担当理事 武田 廣

平成 21 年度に福田秀樹学長を中心とする神戸大学の新執行部が発足した際に、私は研究と情報管理を所掌する理事・副学長に任命された。就任してみてすぐに、「研究」も「情報」も、大学全体として迅速に意思決定する仕組みが欠如しているのに気がついた。あるいは、仕組みが機能していないといった方が正確かもしれない。「情報」に関しては、平成 16 年度からの国立大学法人化に伴い設置された情報管理室が活動を行っていたが、とても全学に号令をかけられる状態ではなかった。例えば、情報管理室および学術情報基盤センターを中心に平成 18 年 2 月にまとめられた「神戸大学 ICT 戦略」は、貴重な提言が数多く含まれてはいるものの、具体的にそれらを実施していくための組織と手順が欠落していたと言わざるをえない（ちなみに、ICT とは Information and Communication Technology）。私自身、法人化をまたいで 6 年間部局長を経験してきたが、部局長会議、評議会等で ICT 戦略が真剣な議論の対象になったという記憶がなかった。

「情報」に関するもうひとつの大きな懸案事項は、その扱う範囲とそれらに対する統一的な取り組みにあった。具体的に言うと、学術情報基盤センターでは、ネットワークや教育・研究用計算機資源を扱っていたが、大学における「情報」の範囲はそれにとどまらず、教務（学生の成績など）、人事・給与、財務、図書館などのシステムが存在し、それぞれが固有の経緯を持っており、ある意味で独自の運用形態をとっているということである。個々の情報システムに対する予算措置もばらばらな状況で、大学全体として司令塔がない状況であった。法人化後、国からの運営費交付金が削減されていく状況の中で、これらの種々の情報システムに対する投資の効率化が求められたのは当然の成り行きであった。（大学の抱える情報システムには、もうひとつ医療情報という巨大でデリケートなものもあるが、今回は割愛する）

これらの課題については、神戸大学の監査法人からも、「情報システムの融合と統括部門の一元化を図る必要がある」との指摘を受けていた。

上記の問題点を鑑み、以下の 2 点が重要であると考えた。

- (1) ICT について全学的に議論する場を設定すること。
- (2) ICT を推進するための核となる組織を立ち上げること。

「組織いじりをして問題も解決しない」という批判は覚悟の上で、平成 22 年 7 月から、ICT 推進のために大きく体制を改変した。まず、「情報管理室」を廃止し、「学術情報基盤センター」と「企画部情報企画課」を統合して、「情報基盤センター」を新設した。情報基盤センターは「ICT 推進の核となる組織」であり、教育・研究のための情報基盤と、大学運営のための事務情報を包括的に取り扱う部局として期待がかかる。したがって、情報基盤センター長は、部局長としての扱いを受け、全学の意味決定プロセスにも参加する

こととなった。また、CIO (Chief Information Officer 情報化統括責任者) と CISO (Chief Information Security Officer 情報セキュリティ統括責任者) の役割を明文化し、CIO 補佐に情報基盤センター長、CISO 補佐に情報基盤センター特命教授を配置し、ICT に係る指揮命令系統を明確にした。

次に、「神戸大学情報委員会」を設置して、大学の ICT に係る重要事項を審議する場を設けた。予算も含めて重要事項を審議の対象とすることで、情報システムごとのばらばらな動きをできるだけ統一化していこうとの期待がある。現在、情報委員会のもとで、情報企画委員会が新たな ICT 戦略を策定すべく精力的に活動を行っている。総花的な提言ではなく、政策的な優先順位をつけた ICT 戦略が平成 23 年夏ごろにはまとまる予定である。これと平行して、緊急時対応策 (CP: Contingency Plan) の検討も平成 23 年度から開始される。

新しい ICT 推進体制を、単なる「組織いじり」で終わらせないためには、平成 23 年度の活動が試金石となる。まずは、「型」から入っていったが、大事なのは新しい体制で何をどうやるかである。できるだけ議論をオープンに行うつもりですので、関係各位のご協力と支援をお願いします。